

	号外	定価1部2円	分会体制は県職労運動の「かなめ」。職場課題の改善に向け、2016分会体制の早期確立をお願いします！	
	昭和34年4月1日	発行所 盛岡市内丸10番1号		No.2368
	第3種郵便物認可	岩手県内		2016年 4月28日
		岩手県職員労働組合		

# 4.27人事課長着任交渉 佐藤総括課長「真摯に勤務環境整備に取り組む」 今年度の欠員、依然139人 不払い残業「あってはならない」

4月27日、県職労は今年度着任した佐藤人事課総括課長と交渉を行い、着任に当たっての基本姿勢やこれまでの継続課題について現時点での見解を質した。

佐藤人事課長は、本格復興の完遂と国体成功のためにも、「マンパワー確保や職員の勤務意欲の維持・向上のため引き続き努力する」「真摯に協議を重ねながら、勤務環境の整備に取り組む」との基本姿勢を示した。主な課題に対する交渉結果は次のとおり。



佐藤人事課長との着任交渉に臨む県職労交渉団

## ○人員確保について

《県職労》現時点で欠員数はどの程度か。解消に向けた取り組みを示せ。

【人事課長】今年度当初は 139人の欠員が生じている。対策として現時点の数字ではあるが、来年度の採用を140人規模とし、10月以降に前倒し採用をする。

《県職労》昨年は前倒し採用でも欠員解消にならなかった。効果のある取り組みを求める。建築士や獣医師など専門職の人員確保のため処遇改善が必要である検討を。



課題を追及する小野委員長

## ○賃金課題（現給保障）について

《県職労》4月から始まった「給与制度の総合的見直し」に伴い現給保障対象者はどのような状況か。勤務意欲の低下につながる課題。どのような認識をもっているか。

【人事課長】現給保障対象者は集計中であるが職員の約4割弱となる。職員の勤務意欲の確保に向けては課題意識を持って取り組む。

《県職労》現給保障は大きな課題であり、具体的改善を求める。

## ○超勤課題について

《県職労》多くの公所で不払い残業が恒常化している。超過勤務の実態をどう捉えているか。また、予算の確保状況はどうか。



見解を示す佐藤人事課長

【人事課長】 昨年の超勤は一昨年と比べても増加傾向であった。今年度はいわて国体等への対応のため、昨年度比2億2千万を上回る超勤予算を確保している。

《県 職 労》 予算は増えていると言うが、現場では増えていないとの声が出ている。職場によっては3割程度しか出ていない。不払いの実態を無くすよう強く求める。

【人事課長】 不払い残業はあってはならないと考えている。 各部局のヒアリングで実態を調べたい。

## ○処遇改善・高齢層職員の勤務意欲確保について

《県 職 労》 高位号給に止まる職員が多く、これまでの賃金制度を踏まえ、高齢層職員の勤務意欲確保が必要。主幹発令等の昇任・昇格の状況と対応はどう考えているか。

【人事課長】 今年度の人事異動で46名（事務系20人、技術系26人）の主幹発令を行った。昨年度と比較して14人の減であるが、過去10年間と比較すれば、事務系は平年並み、技術系は8人の増である。勤務意欲の確保に向け、任用面の配慮、勤勉手当の運用上の工夫など、取組みを継続していきたい。

《県 職 労》 勤務意欲の確保は継続課題としてきたもの、現状では不十分であり、具体策を求める。

## ○諸手当改善について

《県 職 労》 新幹線通勤者をはじめとした通勤手当の自己負担の解消を求める。

【人事課長】 通勤手当等の負担軽減は課題意識を持って取り組んできた。通勤手当の改定等は人事委員会勧告を受けて行うのが基本であり、これまでも職員負担の軽減のため要望については人事委員会に伝えている。 運賃負担の実情やガソリン価格の動向等から、今後の改定の必要性を検討する。

《県 職 労》 勤務のために必要な経費は手当等で支払うべき。改善に向け具体的な検討を要請する。

## ○休暇制度について

《県 職 労》 子の看護休暇の対象年齢の引き上げや、学校行事等参加のための特別休暇の新設など、子育て支援対策に係る休暇制度の新設・拡充について認識を伺う。

【人事課長】 次世代育成支援対策について、子育てのための勤務環境の整備に向け制度・仕組みなど調査・研究を含め取り組んでいるところ。特別休暇は人事委員会規則で定めており、要望は伝える。

《県 職 労》 育児をしても、夜遅くまで仕事を強いる実態がある。真摯に取り組むよう要請する。

【人事課長】 そういった実態は憂慮する。所属長とのヒアリングで言って欲しい。

## ○任期付職員の処遇改善について

《県 職 労》 任期付職員の選考採用について、5月に募集要項を示すとのことだが、選考方法について教養考査が含まれていることや、これまでの勤務実績の反映状況が不明であるなど、疑問が残る。明確な要領を示すとともに、現場での頑張りが選考に反映されるよう求める。

【人事課長】 教養考査について、任期の定めのない職員として採用するに当たり、他の任期の定めのない職員との均衡上、必要と認められることから、教養考査を実施することとしたもの。また、人物考査の個別面接でこれまでの勤務実績を確認するなど工夫をしていく。

《県 職 労》 5年間の業務経験を踏まえれば、教養考査の実施の必要性は乏しく、再考すべきだ。勤務実績を的確に反映するための具体的な内容を早急に示すべき。

# 大船渡市議選「平田ミイ子」議席届かず

4月17日告示・24日投開票の大船渡市議選（定数20人・立候補者24人）において、組織内候補「平田ミイ子」は663票を獲得するも、24位となり残念ながら議席を逃す結果となった。ただ一人の女性候補として女性の力が発揮できる環境づくり、安心して暮らせる町づくりなどの支持拡大に全力を挙げたが、少数激戦の厳しい闘いの中、地域の浸透が図れず苦戦を強いられる結果となった。

支持を頂いた組合員の皆様のご協力に、改めて感謝申し上げます。